

平成23年度国民保護実動訓練の実施結果について

1 目的

緊急処理事態（大規模テロ等）に備え、住民の避難誘導や救援活動が迅速かつ円滑に行えるよう、県、市及び関係機関相互の連携や対処能力の向上を図るための実動訓練を実施しました。

2 概要

- (1) 実施日時 平成24年1月28日（土） 13:20～15:30
- (2) 実施場所 所沢航空記念公園
- (3) 参加機関 県、所沢市（共催）、陸上自衛隊、航空自衛隊、埼玉県警察（警察本部、所沢警察署）、所沢市消防本部、所沢市消防団、狭山市消防本部、入間市消防本部、DMAT（防衛医科大学校病院、さいたま赤十字病院、埼玉医科大学国際医療センター）、看護学校（所沢看護専門学校、西埼玉中央病院附属看護学校）、所沢市自主防災組織
- (4) 参加者数 約400人
- (5) 訓練想定 所沢航空記念公園の野外ステージで、爆発物を使用したテロが発生したことを想定。
- (6) 訓練内容
 - ① 現場における初動体制の確立
 - ・観客の避難・誘導
 - ・有毒な化学物質の有無の検知、トリアージ、爆発物処理
 - ・負傷者の救護・搬送（ヘリ搬送を含む）
 - ・現地調整所の設置
 - ② 緊急処理事態対策本部の設置



※授乳場所につきましては管理事務所までご連絡ください。

3 今回の訓練の特徴

(1) 県警機動隊爆発物処理班による爆発物処理から負傷者の救護搬送まで、自衛隊、警察、消防など関係機関相互の連携を確認しました。

(2) テロ発生現場に現地調整所を設置し、現場における関係機関相互の情報共有や現場の動きについての打合せなど連絡調整を行いました。

また、県及び市に対策本部を立ち上げ、対策本部と現地調整所間の情報伝達訓練を行いました。

4 訓練の状況



平成24年1月28日(土)午後1時27分、所沢航空記念公園の野外ステージにおいて、爆発物を使用したテロが発生した場合を想定し、野外ステージに隣接する広場へ観客の避難誘導を行いました。



観客の通報を受けた所沢警察署のパトカーが到着し、避難してきた観客に事情聴取を行いました。

テロ発生時の状況などについて、負傷していない観客から状況を聞きました。



所沢市が、テロ発生現場の近くに現地調整所を設置しました。

自衛隊、警察、消防など関係機関が現場での打ち合わせや情報共有の場として活用しました。



防衛医科大学校病院とさいたま赤十字病院のD M A T（注1）が、避難してきた観客のトリアージ（注2）を行いました。

（注1）大規模災害発生時の急性期に被災現場に出動し、救命活動できる機動性を持った災害派遣医療チームのこと。



（注2）大規模事故等が発生した際に行われる負傷者を選別する行為のこと。同時に多数の負傷者が発生すると、治療用資機材やスタッフが圧倒的に不足するため、負傷者を重傷度別に分けることで、より多くの負傷者を治療することが可能となる。



トリアージを受けた観客のうち、救急車及びヘリで搬送される負傷者は、所沢市消防本部が設置した救護所に搬送されました。

救護所内において、埼玉医科大学国際医療センターのD M A Tが応急処置を行いました。



トリアージを受けた観客のうち、軽症者は、陸上自衛隊が設置した救護所に搬送されました。

救護所内において、陸上自衛隊衛生班が応急処置を行いました。



所沢市消防本部が野外ステージに有毒な化学物質が撒布されていないかどうかの検知活動を行いました。

検知班が着用しているのは、陽圧式化学防護服です。この防護服は、呼吸用の空気ポンベを使用し、機密性が保たれているため、有害物質から隊員の身を守ることができます。



救護所で応急処置を受けた負傷者は、所沢・狭山・入間の各消防本部の救急車により搬送されました。



野外ステージ内に別の爆発物が設置されていないかどうか、所沢消防署員による探索を実施しました。この結果、新たな爆発物が発見されたことから、県警機動隊爆発物処理班による爆発物処理を実施しました。隊員が着用している緑色のスーツは、防爆防護服です。爆発物に対する防護性が高いことから、最も爆発物に近づく隊員が着用します。



遠隔地にある病院での治療が必要な負傷者、または、近隣の病院に収容しきれない多数の負傷者が出たという想定で、県防災航空隊のヘリが出動し負傷者の搬送を行いました。



同様に、自衛隊にも応援要請をし、陸上自衛隊ヘリが出動し負傷者の搬送を行いました。